



再発見! 中国
日中平和友好条約締結40周年



美丽中国—2018全域旅游年
Beautiful China—Year of Integrated Tourism 2018

日中40周年プロジェクト 消費者がつくった四川フェス

広告

2日間で6万5000人、4800食完売の店舗も 四川料理をテーマに大きく広がる「共感の輪」

四川人気への根強き裏付け

四川フェス実行委員会及び
共催の中国駐東京観光代表
処は、4月7日と8日の2日
間にわたり、東京・西新宿の
新宿中央公園で「四川フェス
2018」を開催しました。

昨年が続いて開かれたイベ
ンには2日間で6万5000
人以上が集まり、参加した四
川料理店の中には2日間で
4800食を完売するケース
も出るなど、改めて、四川料理

を中心とする四川人気の根
強さが裏付けられる結果とな
りました。

中国駐東京観光代表処の
土俵首席代表は、「四川料理
が大好きな一般の人たちが自
分たちの好きなものを世の中
の皆さんに広めるために6万
人を超える規模のイベントを
実行してしまふことに、消費

者による能動的な行動として
の新たなパワーやムーブメント
の胎動を感じる」と語り、イベ
ントの基本的なコンセプトから
運営まで消費者主導で行われ
た四川フェス2018の可
能性を強調しています。



四川フェス実行委員会のメンバーとボランティアの皆さん



ステージで挨拶する土俵首席代表、右隣は
新宿区の吉住健一区長



四川フェス実行委員会の中川正浩委員長

四川フェス実行委員会の委
員長を務める消費各グループ
「麻辣連盟」の中川正道会長
は、「四川フェスの基本コンセ
プトとして、「四川料理をもち
て広めよう」というミッション、
5万人を集めようというビジョン、
四川料理オールスターによる
大人の文化祭をつくるという
バリュー」という3つのポイント
を指摘。

主催者側の想定も上回る
2日間で6万5000人とい
う集客実績については、「もと
もと麻辣豆腐や回鍋肉とい
った四川料理が日本人に馴染み
深い上に、本格的な料理を提
供する店も増えてきて、四川
料理への関心が高まっているこ
とや、一般の消費者が主催する
大型イベントとして親近感を
覚えてもらっていることなどに
より、来場した消費者の皆さん
にイベントを「自分事」とし
て捉えてもらえた」と説明し
ています。

心強い「日中 交流の基盤強 化」

昨年初めて開
催された四川
フェスは、中川
委員長をはじめ
中国への留学経
験を持つコアメン
バーが中心とな
って活動を始める
中で、中国料理
店の料理人や四
川料理好きな消
費者などボラン
ティアの協力メン
バーが自然発牛
的に集まり、緩
やかな組織的連
携の中で実現し
たものです。

成都に留学し
ていた中川委員長が「もっと美
味しい四川料理を食べたい」と
いう思いから、自分で収集した
情報などを集約する形で四川
料理の食べ歩きガイドを1年
前に出版。「素人が書いた本な
のに、プロの料理人の皆さんか
ら評価をいただき、さらに深化
したレビュー情報などを追求す
る中で、四川料理ネットワー
クもどんどん広がっていた」とい
います。

土俵首席代表は、「イベントに
来場した皆さんも向々に中
国や四川へ旅行するとうわ
けではないだろうが、一般の人
たちが「四川料理」をテーマに
共感を広げていく中で、中国へ
の理解も着実に深まって民間
ベースでの日中交流の基盤が
強化されるのは心強い。こうし
た動きを支援するのも、観光
代表処の大事な役割と考えて
いる」と語っています。



「消費者パワー」を具現化した四川フェス
今年で2回目を迎えた「四川フェス」は、会場となった新宿中央公園に来場者が埋め尽くし(上段・右)、四川省のアイコン
である「パンダ」も随所に登場(下段・右)、参加した中国料理店(上段と下段の中央)も、キッチンカーでの調理ながら本格的
な四川料理(上段と下段の左)を提供して、来場者に感動を与えました。

中国駐東京観光代表処